

コーチの勢力資源に関する選手の認知

—高校バレーボール部員について—

伊藤 豊彦*・森 恭**

Toyohiko Iro and Yasushi Mori
Athletes' Perception of Coach's Power Resources in High
School Volleyball Teams

問 題

スポーツの指導者（以下コーチと呼ぶ）が、選手の問題行動の解決や競技力向上のためにどのような指導を行うかは、チームワークや競技成績を規定する極めて重要な要因である。しかしながら、コーチの選手に対する指導が常にコーチの意図する方向で効果があるとは限らない。従って、コーチが選手に対してどのような指導を行えば、選手の行動をコーチが意図するように効果的に変化させることができるかという問題は、コーチにとって極めて重要であると思われる。

ところで、コーチの指導が選手の行動に変化を及ぼすという過程は、社会的な影響過程としてとらえることが可能である。社会的影響過程は、一般に、影響を及ぼす側である行為の主体者（以下Oと略す）とこれを受ける側である行為の対象者（以下Pと略す）の関係としてとらえられる。Cartwright & Zander (1968)によれば、Oの行為の結果、Pになんらかの変化が生じたとすれば、OはPに影響を及ぼしたといい、OがPに影響を及ぼすことのできるような可能性をもてば、OはPに対して勢力（power）をもつと定義される。すなわち、OがPに影響を及ぼすことができるのは、Oになんらかの勢力が備わっているからだと解釈できる。ただ、Oが勢力を持っていても影響力を行使しない場合がある。また、Oが勢力を持っていることにPが気づかない場合は、Oの勢力は意味がない。このような意味において、勢力は、潜在的な影響力と定義されるのであり、勢力の作用過程と影響過程は同義ではない。しかしながら、社会的な影響過程を明らかにする上で、リーダーシップやコミュニケーションと共に勢力は重要な概念であるといえよう。

そこで、本研究では、コーチの選手への影響の試みを可能にする勢力について、その基盤あるいは背景となるコーチの属性、すなわち勢力資源（power resources）について検討することを目的としている。

勢力資源には、いくつかの質的に異なる種類が考えられる。French & Raven (1968)は、一般的な対人間における勢力資源を、報酬勢力（reward power）、強制勢力（coercive power）、準拠勢力（referent power）、正当勢力（legitimate power）、専門勢力（expert power）の5つに分類している。

報酬勢力は、OがPに報酬を与えることができる能力をもつとPが認知することによって成り立つ勢力である。強制勢力は、Oからの影響の試みにPが従わないとすれば、Oによって罰せられるだろうという予期によって生じる勢力である。準拠勢力は、PのOへの同一視に基づく勢力である。正当勢力は、OがPに影響を与える正当な権利を持っているとPが認知することに基づく勢力である。専門勢力は、Oが専門的な知識や技能を持っているとPが認知することに基づく勢力である。

一方、田崎（1979）は、社会的影響過程を教師と児童・生徒関係に限定し、教師の勢力資源を因子分析によって検討している。その結果、「親近・受容」、「外見の良さ」、「正当性」、「明朗性の魅力」、「罰」、「熟練性」、「同一化」の7つの因子を抽出し、「親近・受容」、「外見の良さ」、「明朗性の魅力」の3つの勢力資源を、先のFrench & Raven (1968)の分類に対応しない資源、すなわち教育場面に特有なものではないかと指摘している。また、浜名ら（1983）は、小学校教師の勢力資源として、「人間的配慮」、「罰」、「外面性」の3つの因子を抽出し、小学校教師から高校教師の勢力資源を検討した田崎（1979）の結果と比較して学校教育段階によって勢力資源が異なる可能性があることを指摘している。

* 島根大学教育学部保健体育研究室

** 島根大学教育学部研究生

表1 コーチの勢力資源に関する回転後の因子負荷行列

項目内容	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	F10	F11	F12	F13	F14	共通性
(57)自分より技術が上手だから	686	178	-072	135	069	071	-022	-104	173	054	186	145	-005	-246	0.818
(49)その競技をよく知っているから	685	038	-011	164	228	-032	116	046	-096	016	041	185	-015	004	0.802
46良い成績や記録を持っているから	685	245	109	-043	-097	056	035	-166	043	013	-051	029	010	291	0.795
(53)良い選手を育てたことがあるから	650	162	100	042	-074	-006	051	092	104	123	101	008	123	250	0.774
(47)技術的に尊敬しているから	649	345	-091	099	141	094	105	-158	149	071	154	031	-178	-283	0.862
52 部長のことを本当に考えてくれるから	642	273	-026	293	-106	-077	256	038	-031	-030	-129	-134	-026	-011	0.802
54 一緒に練習をしてくれるから	620	276	080	131	024	171	-083	189	-078	217	022	-139	212	-013	0.815
50 指示に従う方がうまくいくから	618	165	-020	218	211	072	275	015	-033	-166	017	021	032	-048	0.702
43 熱意を持って接してくれるから	544	483	-153	221	178	-085	228	126	125	086	018	-132	020	-138	0.870
39 有名な監督だから	530	300	125	027	246	082	061	-023	130	492	026	158	028	158	0.854
44 年長者だから	497	-035	125	043	109	124	176	271	-187	207	-015	-075	-256	069	0.735
56 自分で気付かない所を教えてくれるから	489	-023	-147	468	082	-032	142	-066	147	-079	341	-119	019	-023	0.801
30 自分より経験が豊かだから	454	018	-079	236	375	131	085	409	013	018	099	-042	-036	-157	0.803
(41)監督が好きだから	246	725	077	114	098	094	113	-094	009	014	071	051	-000	078	0.804
(28)信頼しているから	291	673	-004	144	212	-103	132	068	124	-143	155	-029	-201	-070	0.845
12 やさしい人だから	-055	637	062	-146	172	293	002	203	197	-213	-079	049	-013	148	0.793
27 おもしろい人だから	053	629	263	067	068	127	-076	-151	-051	084	-004	086	-044	318	0.741
(34)自分のことをよく知っている人だから	327	621	071	150	023	-004	078	-081	-038	044	-025	142	168	-096	0.721
45 話しやすく相談のつてくれるから	484	619	002	051	-053	314	-103	059	089	119	-006	-020	098	-064	0.831
(8)人間的に尊敬しているから	138	596	-027	-071	-030	328	319	047	143	218	091	046	037	-127	0.852
48 自分が信頼されているから	386	513	212	013	-050	214	-060	-041	-007	049	-118	110	324	-048	0.748
35 まじめな人だから	278	457	-047	004	195	201	150	-059	-011	126	399	-045	-119	-094	0.700
(13)罰がこわいから	-034	107	867	-052	-019	153	-109	-045	208	-011	-017	-026	-112	-070	0.874
(14)監督にしかられるから	-022	079	777	001	177	-003	056	239	-088	-007	089	-134	-051	-008	0.872
(11)無理やり従わせるから	-035	-028	722	034	152	032	-156	098	-016	047	-157	150	120	075	0.794
(16)監督が恐いから	042	201	685	069	211	-123	195	078	017	143	022	118	140	197	0.798
24 仕方がないから	-146	106	624	101	134	253	-103	050	-241	-017	142	146	-065	-164	0.770
20 反抗する勇気がないから	011	193	550	-168	462	129	127	222	-136	-097	-061	-241	136	042	0.813
40 他の人がそうするから	161	-046	547	-229	-194	288	-077	020	-177	042	229	090	025	124	0.767
51 後々やかましいから	139	-033	547	066	-116	136	-191	077	-336	459	-034	147	-051	071	0.837
58 監督にたたかれるから	097	003	538	-050	-164	214	280	-128	-056	432	-146	029	274	-038	0.761
(36)試合に勝ちたいから	081	053	-067	834	135	-070	082	031	-096	019	030	-036	-169	-082	0.798
(37)自分のためになるから	098	211	-082	803	101	-043	037	027	074	020	-032	-101	056	072	0.782
(25)上手になりたいから	241	031	116	609	276	-151	009	-009	260	-075	129	201	035	001	0.814
33 その競技が好きだから	114	-013	115	579	-087	-067	-224	-001	007	023	-033	-143	101	-029	0.642
(42)他の人に負けたくないから	313	-056	027	567	-005	-102	022	203	157	003	048	181	077	062	0.723
5 強くなりたいから	087	049	-073	475	-064	027	290	120	094	147	073	204	-055	-058	0.681
17 自分ではどうしていいかわからないから	197	087	147	099	740	-020	157	109	243	001	-101	154	-041	-021	0.779
21 自分に自信がないから	041	137	295	080	654	088	-001	077	-002	015	211	087	036	006	0.676
4 従わないと試合に出られないから	138	216	117	-079	068	682	088	123	-036	041	076	057	-035	-097	0.773
9 監督によく思われたから	052	447	125	063	081	656	175	-030	017	034	043	084	128	037	0.802
3 言うことを聞けば自分に責任がないから	058	018	372	-229	-113	573	-050	052	019	099	051	074	-087	318	0.808
59 監督がカッコいいから	007	312	279	-255	138	505	109	181	162	-121	-132	-119	053	-071	0.760
1 言われることが正しいと思うから	272	128	-057	180	169	020	642	-125	232	024	068	-029	018	-068	0.735
2 専門家だから	324	108	-090	-021	166	160	530	092	009	-077	-053	060	-073	134	0.704
10 絶対的存在だから	072	469	112	-110	-078	150	493	338	-070	-019	132	-044	098	-089	0.755
60 他人に迷惑がかかるから	-109	-100	231	052	146	061	-025	662	039	030	-058	028	059	028	0.745
29 部の統一のため	262	070	269	216	093	088	004	507	069	-153	302	049	-219	-057	0.775
55 なんとなく	167	020	281	-170	146	169	005	144	-537	001	073	041	072	-025	0.684
19 自分のプレーの参考になりたいから	280	298	-039	158	354	-008	227	137	515	-084	-055	096	118	-047	0.771
15 専門的な知識を知りたいから	102	086	025	051	256	237	061	085	474	-018	005	077	-019	-011	0.636
38 きびしい監督だから	322	055	442	148	-025	-036	167	016	-063	552	104	-160	-106	-057	0.825
32 監督だから	141	257	142	355	120	104	131	450	-281	067	493	-007	128	154	0.822
18 スランプの状態だから	083	288	193	-020	257	218	038	045	060	-004	009	651	066	019	0.797
6 自分勝手な行動は許されないから	-011	-040	-021	442	-071	223	276	429	028	027	-036	023	-393	012	0.734
31 監督に認めてもらいたいから	112	187	131	331	264	081	229	094	011	-072	037	183	371	031	0.689
23 練習の意図がはっきりしているから	266	346	093	174	334	-176	214	064	304	-041	096	-250	-034	276	0.742
7 自分の悪い所を直してもらえから	247	209	-257	331	168	207	333	052	407	048	208	-015	235	146	0.816
22 監督の言うことが納得できるから	317	351	008	201	339	-375	310	056	245	-011	100	-099	115	-050	0.816
26 従うのが当たり前だから	268	374	123	178	202	008	-004	301	-062	-011	370	240	030	-031	0.733
固有値	13.9	6.9	4.2	3.4	2.5	2.3	1.9	1.8	1.5	1.4	1.2	1.1	1.1	1.1	
分散寄与率(%)	23.1	11.5	7.0	5.7	4.2	3.8	3.2	3.1	2.5	2.3	2.0	1.8	1.8	1.8	

注1) 負荷量の小数点は省略した。また、項目番号の()は、被影響度の分析に用いた項目を示す。

注2) 共通性、固有値および分散寄与率は、回転前のものである。

以上の研究からもわかるように、0の保持する勢力資源は1つではなく、しかも何が勢力資源となるかは、集団のおかれている状況や影響を受ける側の特性によって異なることが予想される。しかしながら、スポーツの指導に携わるコーチの勢力資源について検討したものは、現在までのところ見当たらない。

そこで、本研究では、コーチの選手への影響の試みを可能にするコーチの勢力資源について、その内容を選手の認知に基づいて検討することを目的とする。また、選手は、抽出された勢力資源に基づいた影響を現実にとどの程度受け入れているかについても検討する。このような試みは、効果的なスポーツ指導を考える上で、重要な手がかりを与えらると思われる。

方 法

予備調査 コーチの勢力資源としての項目を収集するために、運動部に所属する大学生93名に対して「部活動の練習や試合のときに、監督（コーチ）の言われることをよく守ったり、指示に従った」理由について中学・高校時代を含めてできるだけ多く自由に記述することを求めた。

本調査 予備調査によって得られた内容を、意味の多義性や項目内容の重複等から検討した結果102項目が得られた。さらにこれらの項目を、回答の際の負担軽減の観点から、前述した先行研究を参考に特定の内容に集中しないことを基準に60項目に整理した（表1を参照）。そして、それぞれの項目が「部活動の練習や試合のときに、監督（コーチ）の言われることをよく守ったり、指示に従う」理由としてあてはまる程度を6段階評定させた。

調査対象 調査対象は、高校バレーボール部に所属する選手140名（男子83名、女子57名）である。

なお、本研究における計算は、部分的に京都大学大型計算機センターのSPSSによって行われた。

結 果

選手の認知するコーチの勢力資源の内容

選手が、どのような資源をコーチの勢力資源であると認知しているかを検討するために、因子分析(主因子解、固有値=1以上→バリマックス回転)を行った。回転後の因子負荷量を表1に示す。14因子が抽出されたが、同一項目で特定の因子に.450以上の負荷量を示し、同時に他の因子に.400以上の負荷量を示さないことを基準に検

討した。その結果、第5因子以下では高い負荷量を示す項目が3項目以下となるために、これら因子を解釈・命名することは不可能であると判断し、第四因子までを解釈・命名の対象とした。なお、これら4因子の全体に対する寄与率は47.3%であった。

第1因子には、「自分より技術が上手だから」「その競技をよく知っているから」「良い成績や記録をもっているから」など、コーチとしての技術的な熟練性を示す10項目と、「部員のことを本当に考えてくれるから」「一緒に練習してくれるから」といった選手との円滑な人間関係を示す3項目が含まれている。これらの内容は、いずれもコーチの指導に係わる内容であることから、この因子を「指導性」の因子と命名する。

第2因子に高い負荷量を示したものは9項目で、「監督が好きだから」「信頼しているから」「やさしい人だから」など、コーチに対する好意に基づく魅力を示す内容が含まれており、これを「魅力」の因子と命名する。

第3因子には、「罰がこわいから」「監督にしかられるから」「無理やり従わせるから」など、コーチの罰に対する恐れやそれを回避する内容を示す9項目が高い負荷量を示している。従って、この因子を「罰」の因子と命名する。

最後に、第4因子には、「試合に勝ちたいから」「自分のためになるから」「上手になりたいから」などの6項目が高く負荷している。これは、選手がコーチの技術的な指導能力を認知し、それに従うことが自己の目的である勝利や技術の向上に役立つためにコーチの影響を受け入れているようすが示されており、「技術指導」の因子と命名する。

表2 被影響度得点（上段は平均，下段は標準偏差）

勢力資源	指導性	魅力	罰	技術指導
男 (N=83)	14.0 4.99	11.8 4.53	11.2 5.11	17.7 4.43
女 (N=57)	16.2 3.60	12.2 3.56	10.4 4.38	19.3 3.36

表3 分散分析表

変動因	SS	df	MS	F
被験者間	4230.71	139		
性別(A)	92.75	1	92.75	3.09
誤差	4137.96	138	29.99	
被験者内	10890.25	420		
勢力資源(B)	4694.81	3	1564.94	107.64**
A×B	176.09	3	58.70	4.04**
誤差	6019.35	414	14.54	

**p<.01

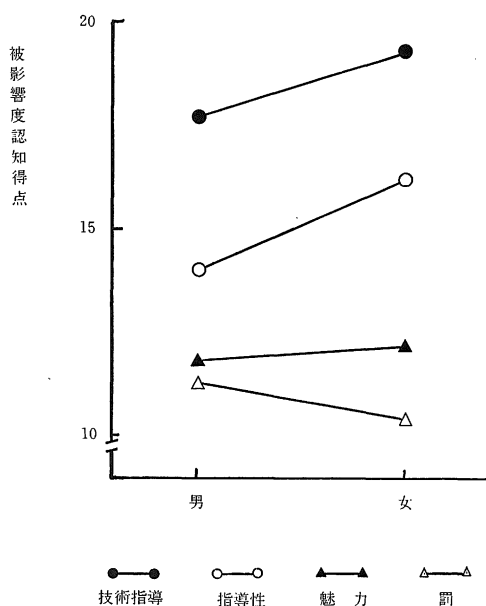


図1 勢力資源に基づく被影響度に関する選手の認知

勢力資源に基づく被影響度の認知

抽出された解釈可能な4つの因子に関して、選手が各勢力資源に基づいた影響を現実にもどの程度受け入れているかを明らかにするために、各因子を代表する各4項目への評定値を単純加算した。そして、これを選手の各勢力資源に基づく被影響度認知得点とした（各得点可能範囲は4—24点、選ばれた項目は表1を参照）。

表2は、因子別、性別にみた被影響度認知得点の平均と標準偏差である。図1は、これを図示したものである。表2に基づいて、性別(2)×勢力資源(4)の分散分析を行った。表3によれば、勢力資源の主効果に有意差が認められた ($F=107.64$, $df=3/414$, $p<.01$)。このことは、コーチの勢力資源の種類によって、選手の認知する被影響度が異なることを示している。次に、性別×勢

力資源の交互作用に有意差が認められた ($F=4.04$, $df=3/414$, $p<.01$)。そこで、性別に各勢力資源に基づく被影響度の相対的大きさを検討すると、男子では、技術指導>指導性>魅力≒罰、女子では、技術指導>指導性>魅力>罰の順であり、ほぼ同様であった¹⁾。ただ、技術指導資源と指導性資源の被影響度は、男子よりも女子の方が高く認知していた（それぞれ、 $t=2.21$, $df=552$, $p<.05$; $t=3.03$, $df=552$, $p<.01$ ）。

勢力資源間の関係

コーチに付与される各勢力資源が相互にどのような関係にあると選手に認知されているかを検討することは、それらの機能を明らかにする上で重要であると思われる。そこで、各被影響度認知得点をその得点可能範囲をもとに2分割し、強弱のカテゴリーに分類した上で数量化Ⅲ類による分析を試みた。

表4は、第Ⅴ成分まで求めた結果である。また、図2は、第Ⅰ成分と第Ⅱ成分の数量をカテゴリーごとに平面

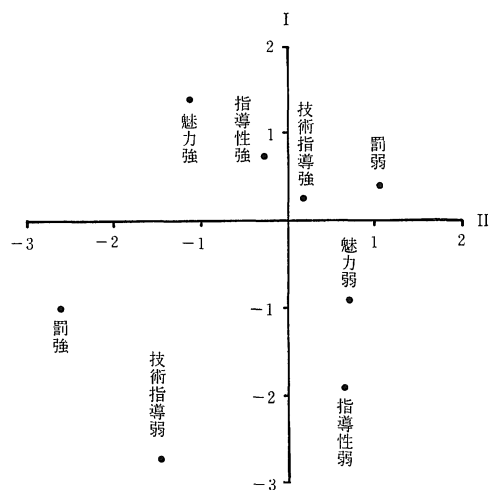


図2 勢力資源因子の各カテゴリーに施された数量

表4 各カテゴリーに施された数量

変数	カテゴリー	I	II	III	IV	V
指導性	弱	-1.919	0.653	0.836	2.282	-0.028
	強	0.767	-0.261	-0.335	-0.911	-0.028
魅力	弱	-0.888	0.723	0.288	-1.059	-0.015
	強	1.410	-1.148	-0.457	1.684	-0.015
罰	弱	0.397	1.046	-0.542	0.234	-0.029
	強	-0.992	-2.615	1.356	-0.580	-0.029
技術指導	弱	-2.682	-1.469	-4.823	-0.083	0.073
	強	0.329	0.180	0.591	0.006	0.073

上にプロットしたものである。これを見ると、第一象限（Ⅰ軸＋，Ⅱ軸＋）には、「技術指導・強」と「罰・弱」が設置している。第二象限（Ⅰ軸＋，Ⅱ軸－）には、「魅力・強」と「指導性・強」が位置している。第三象限（Ⅰ軸－，Ⅱ軸－）には、「技術指導・弱」と「罰・強」が位置している。第四象限（Ⅰ軸－，Ⅱ軸＋）には、「魅力・弱」と「指導性・弱」が位置している。

考 察

まず、第1に、選手が認知するコーチの勢力資源として抽出された解釈可能な4つの因子を、本研究がコーチ－選手関係における勢力資源の検討であることを踏まえながら、French & Raven (1968) の分類した5つの勢力の基礎および田崎 (1979) の抽出した教師の勢力資源因子と比較する。

「指導性」の因子は、コーチの技術的熟練性を高く認知すると同時に、コーチの存在を身近かなものを感じているという認知に基づく勢力資源であり、スポーツのコーチが保持すべき基礎的な資質と選手に対する配慮に基づいて選手がコーチの影響を受け入れているようすが示されている。French & Raven の専門勢力、田崎の「親近・受容」因子が部分的にこれに近いと思われる。しかしながら、これと一義的に対応するものは見当たらないことから、スポーツ場面に特有な勢力資源であろう。

「魅力」の因子は、選手がコーチの性格や人間性に対して好意や好感に基づく魅力を感じることによって生じる勢力である。French & Raven の分類では準抛勢力、田崎の抽出した「明朗性の魅力」因子がこれに近いと思われる。

「罰」の因子は、コーチが選手に罰を与えることができると選手が認知することによって成り立つ勢力である。これは、French & Raven の分類では強制勢力、田崎の抽出した「罰」因子に対応する。

「技術指導」の因子は、選手がコーチの技術指導の能力を認めた上で、それに従うことが選手の目標である勝利や技能向上に役立つと認知することに基づく勢力である。一般の対人間における勢力資源として指摘したFrench & Raven の分類では、報酬勢力に対する。しかしながら、教師の勢力資源としてはこれに対応するものが抽出されていないことから、先の「指導性」の因子とともにスポーツ場面に特有な勢力資源であると考えられる。ただ、「指導性」の因子は、コーチが一般的な指導力を有しているという認知に基づく勢力資源であった

のに対し、この因子は、コーチの指導を受けることが自己の報酬になるという認知に基づいた勢力資源であることに注意が必要である。

第2に、4つの勢力資源に基づく選手の被影響度の認知について検討する。

分散分析の結果、勢力資源の主効果と性別×勢力資源の交互作用に有意差が認められた。選手の認知する被影響度の相対的大きさは、男女ともほぼ技術指導、指導性、魅力、罰の順であった。ところで、各被影響度認知得点の中心は14.0である。従って、中心以下の得点を示す勢力資源は、コーチの勢力資源として「あてはまらない」と認知されていることを意味する。この観点から図1を見ると、魅力と罰の勢力資源に基づく被影響度得点は中心よりも低く、スポーツ場面に特与と考えられる技術指導と指導性に基づく被影響度が相対的に高く認知されていることは、実際の指導にとって有益な手がかりを与えられると思われる。

次に、勢力資源別に男女の被影響度を検討した結果、技術指導と指導性において、女子が男子よりも高い得点を示した。これは、技術指導と指導性の勢力資源に基づく影響を男子よりも強く受け入れていることを示している。一般に、コーチへの依存度は男子よりも女子の方が高いとされているが、これとの関係で興味深い。

第3に、選手の認知する各勢力資源間の関係を明らかにするためにを行った数量化Ⅲ類による分析結果について検討する。図2によれば、第Ⅰ軸（第Ⅰ成分）は、魅力、指導性、技術指導因子の強弱を説明すると考えられる。一方、第Ⅱ軸（第Ⅱ成分）は、罰因子の強弱を説明すると考えられる。魅力、指導性、技術指導の因子は、選手にとってポジティブな勢力資源であるのに対し、罰の因子は、ネガティブなものであることから解釈できよう。

各勢力資源因子の位置を見ると、「魅力・強」と「指導性・強」、「魅力・弱」と「指導性・弱」がそれぞれ近く、しかも対称的な象限に位置している。このことから、選手は、指導性と魅力の勢力資源をコーチの勢力資源として比較的類似したものと認知していることが考えられる。先の被影響度の分析において、指導性に基づく被影響度は高く認知されていたが、魅力に基づく被影響度は高く認知されていなかった。にもかかわらず、両者の密接な関係が認められたことは、指導性に基づくコーチからの影響を受け入れる基盤として魅力因子が認知されていると考えることができよう。

また、「技術指導・強」と「罰・弱」、「技術指導・弱」と「罰・強」がそれぞれ近い位置にあり、対称的な象限に含まれている。技術指導は、コーチの指導を受けるこ

とが選手にとって役に立つという認知に基づく勢力である。この勢力資源と罰の勢力資源の関係を、選手が対立したものととらえていることは、選手の勝利や技能向上の欲求がコーチの罰によって抑制されることを示していると考えられる。

最後に、本研究の問題点と今後の課題について述べておく。

まず、本研究では、対象が高校生であるバレーボール部員に限定されていた。つまり、本研究は、高校でバレーボールを指導するコーチの勢力資源について検討したものである。スポーツ集団では、チームとして競技するだけでなく個人スポーツのように個人が中心となる集団の形態もある。また、競技を目的とした集団だけではなく、レクリエーションを主たる目標とする集団も存在する。従って、本研究で認められたコーチの勢力資源が、集団の形態を越えて認められるかについては明らかではない。さらに、指導を受ける選手の発達段階によっても勢力資源は異なることが予想される。以上のような問題の検討を通して、広くスポーツ場面に共通するコーチの勢力資源や個々の指導場面に特有の勢力資源が明らかになると思われる。

次に、勢力資源に基づくコーチの影響の試みが、どのような機能を持っているかという問題がある。つまり、どのような勢力資源に基づく勢力を行使することが有効であるのか。選手の成績やコーチに対する満足感などとの関連について検討する必要がある。

さらに、リーダーの行動は、何らかの勢力に基礎を置いた行動として成員に受けとめられることが指摘されている（例えば、三隅，1984）。従って、どのようなコーチの行動が、どのような勢力に基礎を置いた行動として選手に受けとめられるのか、今後検討してみたい。

ま と め

本研究の目的は、選手の認知するコーチの勢力資源の内容を明らかにし、各勢力資源の影響を選手が現実ほどの程度受け入れているかについて検討することであった。

高校バレーボール部に所属する140名の選手を対象に、「部活動の練習や試合のときに、監督（コーチ）の言われることを守ったり、指示に従ったりする」理由を60項目提示し、理由としてあてはまる程度を6段階で評定させた。

主な結果は、以下の通りである。

1) 因子分析の結果、選手の認知するコーチの勢力資源として、「指導性」「魅力」「罰」「技術指導」の4つの因子が解釈可能なものとして抽出された。

2) 抽出された解釈可能な各勢力資源に基づく被影響度の相対的大きさについて分析した結果、男子では、技術指導>指導性>魅力≒罰、女子では、技術指導>指導性>魅力>罰の順であった。また、技術指導と指導性に基づく被影響度については、男子よりも女子の方が高かった。

3) 抽出された各勢力資源因子間の関係を検討するために数量化Ⅲ類による分析を行った結果、選手は、指導性と魅力の因子をコーチの勢力資源として類似したものと認知していた。また、技術指導と罰因子を対立した関係にあると認知していた。

注1) 平均値間の有意差検定の結果を意味し、>は5%水準で有意なことを、また、≒は ns を示している。なお、本研究における下位検定は瀧野（1965）に準じている。

引用・参考文献

- Cartwright, D., & Zander, A. 1968 Power and influence in group: Introduction. In D. Cartwright & A. Zander (Eds.) Group dynamics, 3rd ed. Harper & Row. 215-235.
- French, J. R. P. Jr., & Raven, B. 1968 The basis of social power. In D. Cartwright & A. Zander (Eds.) Group dynamics, 3rd ed. Harper & Row. 259-269.
- 浜名外喜男・天根哲治・木山博文 1983 教師の勢力資源とその影響度に関する教師と生徒の認知 教育心理学研究, 31, 220-228.
- 三隅不二 1984 リーダーシップ行動の科学(改訂版) 有斐閣
- 瀧野千春 1965 分散分析における単純効果の検定について 奈良学芸大学紀要, 13, 163-170.
- 田崎敏昭 1979 児童・生徒による教師の勢力源泉の認知 実験社会心理学研究, 18, 129-138.

<付記>

本研究は、角雄二が昭和61年度島根大学教育学部卒業論文に用いた資料を、本研究者が再分析したものである。